

祭りの行方になった(京)

20年  
5年

あり、市は近く仮設橋の建設などの対応策について、神社や地元住民と協議する。  
(竹下大輔)

# 細胞分子しつかり固定

## 京大 教授ら 最適な観察方法開発

細胞内の分子を固定して観察する最適な方法を、京都大物質-細胞統合システム拠点の楠見明弘教授や鈴木健一講師、元大学院生の田中賢治さんたちの研究グループが開発した。従来の方法では、動き回る分子を完全に固定できていないことが多く、分子の状態を誤って観察していた可能性が高いという。英科学誌「ネイチャーメソッド」で4日発表する。

考えられているが、分子固定が不十分な場合、ラフトが抗体の作用で二次的に作り出される場合もあるという。

楠見教授は「これまでのラフト関連の研究には、細胞の固定が不十分なものもあると考えられるので精査が必要だ」と話している。  
(松尾浩道)

固定されているかどうかは、これまで十分に調べられていなかった。楠見教授たちは、従来の方法では、動き回る分子を完全に固定できていないことが多く、分子の状態を誤って観察していた可能性が高いという。英科学誌「ネイチャーメソッド」で4日発表する。

生体から取り出した細胞内の分子の分布を調べるには、固定剤で分子を固定してから、狙った分子に特異的に取り付く蛍光分子付きの抗体を使う方法が主に用いられている。しかし、分子が完全に固

定されているかどうかは、これまで十分に調べられていなかった。楠見教授たちは、従来の方法では、動き回る分子を完全に固定できていないことが多く、分子の状態を誤って観察していた可能性が高いという。英科学誌「ネイチャーメソッド」で4日発表する。

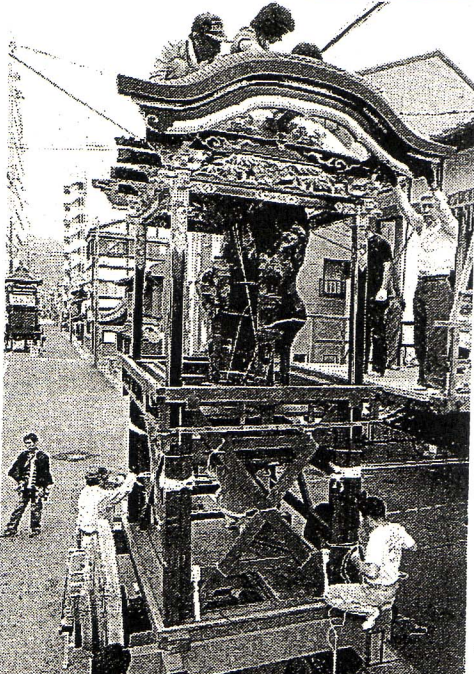
細胞膜には、脂質分子の集合体「ラフト」があり、アレルギーやアルツハイマー病、インフルエンザウイルスの増殖と関連があると

# 彦根城 世界遺産の道険し

## 「ライバル」鎌倉は着々



世界遺産登録を目指す彦根城。天守や庭園、御殿が一体として残る近世城郭だが、登録実現のめどはついていない(彦根市)



山建て作業が進む神功皇后山(3日午前11時、大津市中央3丁目)＝撮影・梶田茂樹

屋根の順に組み立てた。曳山の一つ、神功皇后山

私

ある。

(三好吉彦)

策は地方の役割が大きい」とし、政府が地域主権改革で地方の税財源の充実を掲げていることから事業量に見合った配分を求めると、しかし国の財政再建を重視する財務省と配分をめぐる綱引きも予想される。

総務省によると、全国自治体の10年度の温暖化対策関連予算額は1兆6400億円が国

世界遺産登録を目指す彦根城(彦根市)が、審査通過のハードルを越えられないでいる。市は重い腰を上げて取り組みに乗り出したが、国や国連教育科学文化機関(ユネスコ)の選定基準は年々厳しくなり、攻略の糸口をつかめない。国内候補に当たる「暫定リスト」に1992年当初から名を連ねながら、ともに取り残されている「鎌倉」が着々と歩みを進める中、唯一の留年組になる日が近づいている。

だが、準備は停滞している。9月3日、彦根市役所で開かれた世界遺産登録推進委員会。国へ提出する推薦書原案のたたき台を、先行登録の姫路城を含めて近世城郭群としての一体登録▽姫路城にない城下町との一体性を打ち出した単独登録の2パターンを想定してまとめたが、「一体化か単独か、どちらを目指すか決めないと推薦書原案をつくれぬ」と、全市的な取り組みにするため、推進体制の充実も必要」と意見が出て、まとまらなかった。

## 協力難航 大幅改修必要

### 単独登録 姫路城と一体登録

登録へのプロセスで、1992年に暫定リスト(現在14件)入りした彦根城は「国からユネ

市担当者は「年内に再提案して議論を進めたい」とするが、推薦書原案をいつ完成できるかが求められる。